

【下松市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

子どもたちが災害についての知識及び対応方法を学ぶことで、いざという時に自分自身を守る力を養うとともに、今後の地域防災において地域社会に貢献しようとする子どもたちの意識の向上と実践力の育成を図ります。



実施内容

- 1 実施日時：平成28年7月30日（土）・31日（日）
- 2 実施場所：東陽小学校体育館
- 3 参加者：東陽小学校児童25人、久保小学校児童21人、久保中学校生徒2人
関係学校教職員8人、関係学校保護者45人、地域住民60人
市総務課防災危機管理室3人、市消防本部3人、久保公民館3人
市教育委員会1人、県教育委員会1人

4 プログラム

【1日目】7月30日（土）

12:00	13:30	14:30	15:30	17:00	19:00	21:00	21:30	
開会行事	避難者受け入れ	【学習Ⅰ】 [講演] 山口大学 三浦副学長	【学習Ⅱ】 [講話・実習] 市消防本部 ・応急手当 ・簡易担架	【学習Ⅲ】 避難所づくり	【学習Ⅳ】 炊き出し 訓練 (夕食)	【学習Ⅴ】 [講話] 市総務課 防災危機管理室 [実習] ・夜間避難訓練	就寝準備	就寝

【2日目】7月31日（日）

6:30	7:10	8:00	9:00	10:30	11:30	12:10
起床	朝食	清掃・片づけ	【学習Ⅵ】 [講習] 水難事故防止 ・着衣泳 ・救命方法 ・背浮き体験 等	振り返り	学習発表会	閉会行事 引き渡し

5 活動の様子

1日目

《避難者受け入れ体験》

避難所となる体育館を準備（受付や下足置き場の設置等）し、実際に避難してきた地域住民の受付や誘導を体験しました。



〔受付準備〕



〔下足置き場設置〕



〔避難所受付〕

《講演 講師：山口大学 三浦房紀副学長》

《講話 講師：下松市消防本部》

《講話 講師：下松市総務課防災危機管理室》

山口大学の三浦房紀副学長から、「地震・風水害 安心して生活するために」と題して、過去の災害やこれから起こる災害について御講演をいただきました。また、下松市消防本部からは被災地支援体験の講話を、市総務課防災危機管理室からは雷や川の増水等、身近な危険から自分の身を守る方法について学びました。



〔三浦先生による講演〕



〔被災地支援体験講話〕



〔身近な自然災害について〕

《実習 講師：下松市消防本部》

いざという時、周囲の安全に貢献できるように、応急手当の仕方を学んだり、毛布を使用した簡易担架づくりなどに挑戦しました。



〔応急手当講習〕



〔応急手当実習〕



〔簡易担架づくり〕

《避難所づくり》

段ボールを使い、寝床をつくりました。



〔寝床づくり〕



〔寝床づくり〕



〔完成〕

《炊き出し訓練》

災害救護用の炊飯袋及び災害用移動炊飯器を使用し、炊き出しを行いました。また、保護者等の協力のもとカレー作りにも挑戦しました。



〔炊飯準備〕



〔災害用移動炊飯器〕



〔炊き上がり〕

2日目

《朝食》

朝食は、アルファ化米等の非常食をプライベートルームで食べました。



〔非常食（アルファ化米）〕



〔15分で完成〕



〔食事の様子〕

《水難事故防止講習 講師：徳山海上保安部》

徳山海上保安部の方の指導のもと、着衣泳やペットボトルを使用した背浮きを体験しました。また、救命方法についての講習も受けました。



〔着衣泳体験〕



〔背浮き体験〕



〔救命方法講習〕

【児童・生徒・保護者の感想より】

- 水難事故防止講習が心に残りました。理由は水着とは違って服がぬれると重たくなって、泳いだり動いたりすることが難しくなることや、ペットボトルが浮き輪の代わりになって2リットル容器1本だけでも浮くことができることが分かったからです。(小6男子)
- 三浦先生のお話で、南海トラフの巨大地震は「みなさんが生きているうちに必ず発生します」と説明があったので、地震が起きた時は今回学んだことを生かして自分の身は自分で守れるようにしたいと思いました。(小6女子)
- 段ボールで寝るところを作る時はみんなで協力して楽しく作業できたけれど、寝るときは床が固く頭や腰が痛くなってなかなか寝られませんでした。災害にあった人はこの状態がしばらく続くのかと思うと本当に大変だなと思いました。(小5男子)
- 新聞紙やラップ、ビニール袋など身近にある物を使ってかんたんに応急手当が出来ることを学べて良かったです。家族や友達がけがをしたときに、すぐ手当が出来るようしっかりと覚えておきたいです。(小5女子)
- 夜間避難訓練では懐中電灯の必要性を感じました。それは、真っ暗な中を移動するのはとても怖くて、動くことの難しさを感じたからです。夜の地震で停電になりガラスや家具など散らかっている中で動くと思うと、懐中電灯を準備しておこうと思いました。(小6女子)
- 私が防災キャンプの体験で一番心に残っていることは、みんなで協力することの大切さです。避難所作りや炊出しなど一人では大変で難しいことも、みんなで考えて協力することで大きな力になることが分かったからです。(小5女子)
- 私達は大丈夫という根拠のない過信により、真剣に防災を考える機会を逃していましたが、防災キャンプに参加し子供達と一緒に学び体験したことで、以前よりも防災を意識するようになりました。一泊二日でしたが大変有意義な時間を過ごさせていただきました。(小学校保護者)